

2 これからの群馬県の発展のために

(1) 交流人口の増加

第14次群馬県総合計画「はばたけぐんまプラン」では、発展する群馬県の交通拠点性を活かして、交流人口を増加させ、群馬県経済の発展を目指すとしている。

また、観光庁ではMICE（会議（Meeting）、研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、見本市・イベント（Exhibition/Event）の頭文字）の推進により、日本の認知度向上に力を入れており、これからの群馬県の発展を考えた時、国際的な集客を含む交流人口を増加させることが必要である。

(2) 産業・経済の振興

群馬県には、製造品出荷額の大きい輸送用機械器具や情報通信機械器具、電子部品・デバイス、プラスチックや衣服その他の繊維製品の各分野事業所の集積がある。

これら強みを持った分野の産業をさらに成長させていくためには、商品展示や販売促進のためのイベントを開催していく施設が必要である。

また、本県は最先端のがん治療施設である重粒子線治療施設など、優れた医療技術を持つ医療先進県である。こうした、高度な医療技術を県内外に広めるとともに、医療の充実を図るための学術会議や技術交流ができる施設に対する要望も強い。

(3) アジアの成長力の取り込み

県では、平成24年3月に、『群馬県国際戦略』を策定し、成長著しい東アジアの活力を取り込むこととした。

先進諸国が経済停滞に苦悩する中、中国を中心とする東アジア諸国は、著しい経済成長を続けており、世界経済の牽引役としての存在感が増している。

東アジア諸国の購買力が向上し、身近な場所に旺盛な消費意欲を持つ巨大な市場が出現していることを考えると、東アジアの旺盛な需要を取り込み、本県経済の活性化につなげていくことが必要である。

(4) 機会損失の解消

日本における国際会議の開催状況は、年間741件の開催があり、アメリカに次ぐ世界第2位である（出典：JNT02010年国際会議統計）。

しかし、群馬県には一定規模以上の収容能力や、同時通訳設備を有する施設がないため、多くのコンベンションが群馬県以外での開催となっており、平成17年～22年の過去5年間において、県内で開催された国際会議の数は7回と全国で下位から7番目の低水準となっており、ビジネスチャンスを喪失している。

群馬県の発展を考えた時、これらを解消していく必要がある。